CRT 栃木放送『開倫塾の時間』	2006 年 8 月 19 日(土)放送速記録

対談／茂木先生

林　：　おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も開倫塾の時間をお聴き頂きましてありがとうございます。毎月第３週は、衆議院議員で元 IT 担当大臣もなさいました茂木としみつ先生からお話を伺います。今月もよろしくお願いいたします。

茂木：　よろしくお願いします。夏休みも後半で、子供達も宿題をどうにかしなければと思っているでしょうね。

林　：　そうですね。さて、今回は「シルバーパワーの活用」についてお伺いしたいと思います。

茂木：　少子高齢化社会について、林さんと一緒に４回シリーズで議論させて頂き、今回が締めくくりになります。第１回目は日本の少子高齢化社会の特徴についてで、とにかく高齢化のスピードが速いと同時に、ヨーロッパでは歯止めがかかってきたが、日本は今まさに現在進行形であることをお話させて頂きました。第２回目はこの少子高齢化が社会にどのような影響を持つかについてで、１つは労働力の不足がおこる問題、もう１つは、お金を持っている年代が、30 年前の 30 代・40 代から今は 60 代以上の世代になり、ちょうど子育て期の世代は財政的に厳しいこと、また、社会保障費、医療や年金にかかるお金が 80 兆円以上に膨れあがっていることをお話しました。第３回目は子育てと女性の社会進出についてで、U字カーブ・M字カーブという言葉を使って、女性がもっと社会進出できる環境整備をする必要があるというお話をしました。80 兆円以上の社会保障費の中で、高齢者給付金は比較的潤沢ですが、少子化対策のための児童家庭給付金は僅少なので、増額するなりして充実させていく必要があるというお話もしました。今回は最後ということで、「シルバーパワーをもっと活用しよう」ということについてお話します。

林　：　そうですね。お元気な方はたくさんいらっしゃいます。

茂木：　これによって、２つのよいメリットが生まれてきます。１つは、労働力不足の解消。高齢者がもっと働くことにより高齢者は健康になり、同時に雇用増にも繋がっていくメリットがあります。もう１つは、社会保障費の膨張を押さえる意味で１番大切なことです。社会保障費 88 兆円の中で、医療費は約 30 兆円を占めています。医療費 30 兆円の中で、14 歳以下の子供達の医療費が占める割合は何パーセントくらいだと思いますか。

林　：　分かりません。教えて頂けますか。

茂木：　約７％です。そして、働き盛りの 40 代の半ばまでは 15 ％。40 代の後半からだんだん病気が増えてきて 65 歳までは 28 ％。残り半分、ちょうど 50 ％が 65 歳以上の老人医療費です。つまり、30 兆円のうちの 15 兆円を老人医療費に使っているわけです。これをよい形で減らすことができれば、社会保障費全体を圧縮することにも繋がります。

林　：　いつまでも若々しく生きる、このことについても考えて頂きたいですね。では、それにはどのような対策があるのでしょうか。

茂木：　ヒントはあると思います。この高齢者医療費、全体で 15 兆円かかっていますが、地域によってばらつきがあります。入院の期間なども相当違います。日本は、欧米に比べて入院の期間が長いと言われています。欧米の平均が２週間であるのに対して、日本は３週間です。これが欧米並みの２週間になり、１週間減ると、これだけで１兆 3000 億円のコスト削減に繋がります。これが、地域によっても病院によっても違うのです。日本全国 47 都道府県の中で、優等生は信州の長野県です。お年寄り１人当たりの医療費が１番少ないのです。１番の劣等生、お金が１番かかっているのは、九州の福岡県です。

林　：　なるほど、１つ勉強になりました。

茂木：　逆に、お年寄りが働いている率でみると、率が１番高いのが長野県。１番低いのが福岡県です。やはり、お年寄りも働いていると元気なのです。気持ちの上でも張りがあります。自分が仕事に行かなければいけない。これは、ボランティアでも仕事でも同様ですが、自分が中心になってやっているという思い・気持ちの張りが健康にも繋がっていくのですね。一方で、何もしないで家でゴロゴロとしていれば、お年寄りでなくても腰が痛くなりますよ。それで病院に行き、そこでお友達ができるようでは困ります。こういったことを変えていくことが必要だと思います。愛知県に、西島鉄工という私の友人のやっている会社があります。この会社の技術がないとトヨタの車は１台もできないというくらい、工作機械で非常に有名な会社です。この会社のもう１つの特徴は定年制がないことです。

林　：　それは、素晴らしいですね。

茂木：　70 歳でも現役で働き、75 歳でも現場に出ています。どんなにコンピュータが発達しても、逆に知恵・経験・匠の時代なんだということで、元気なうちはいくらでも働いて下さいという会社です。私は、先ほどの福岡県と長野県との対比、愛知の西島鉄工にヒントがあると思うのです。企業はもう少し高齢者を雇い入れる。すると、働きに出ることにより健康も維持できる。年金ももらうが同時に自分の収入で食べてもいける。こういう自立した社会をつくっていくことが、結果的には医療費も抑え、社会保障費も抑え、一方では労働力を増やすというように、プラスに繋がっていくと思います。

林　：　社会参加にもなりますね。

茂木：　そうですね。

林　：　今月も、スペシャルゲストとして茂木としみつ先生をお招きしてお話を伺うことができました。誰もがいつまでも若々しく生きられる社会ができれば素晴らしいと思います。

　５月、６月、７月、８月の４回を通して、少子高齢化社会の対応についてお話を伺いました。是非、秋からもいろいろな問題について教えて頂きたいと思います。

茂木：　夏休みも終盤ですから、お聴き下った方々も２学期に備えて頑張って下さい。